

体育における学習意欲欠如者の抽出および その治療について

天野 菊三郎・原田 秀雄・稲山 沢子

I. 研究目的

私たちが体育の学習指導をするにあたって、常に感ずることは、どうすれば同時に学習する多数の生徒をあらかじめ計画された学習目標に向わせ、その目的に到達させることができるかということである。そのためにはまず第一に全ての生徒によく学習目的を理解させることであり、つぎに目標に向かって素直に突き進む学習への積極性をもたせること、言い換えれば学習に進んで参加しようとする強い学習意欲をもたせることにあると考える。しかし実際私たちが生徒指導にあたり、そうした学習のふんいきを作りあげること、全ての生徒に、一様に強い学習への参加意欲をもたせることはむずかしく、時には一部に学習意欲の欠ける生徒、学習への積極性を欠く生徒が出るばかりでなく、逆に学習への参加を拒否しようとするマイナスの意欲さえも感じられる場合がある。こうした意欲という問題は生徒に個性があり、身体的条件に個々に相違があると同様に、精神的条件の均一化ということは不可能に近いと考えられる。勿論、学習意欲というものを一般的に大勢の生徒についてしらべ、一般的な理論をうち出すことは可能だろうが、私たちが実際生徒を指導する立場にたって、一人一人の生徒について考えてみると、公約数的な一般理論だけの適用というものが、どのくらい役に立たないものであり、危険なものであるかは明らかである。こうした考え方のもとに、私たちが現在受けもっている生徒たちの中から学習に対する積極性が、他の生徒にくらべて非常に欠けていると思われるものを抽出し、ケース・スタディーの方法により、その治療まで考えてみようとした。ここで、私たちが学習意欲欠如者といったのは、学習場面において積極的な学習意欲に欠けている

と極端にみとめられる者を指し、その生徒が明らかに、他の生徒の学習の妨げとなり、あるいは教師の指導の妨げとなる場合は勿論であり、そうした生徒のいることが、表面的には何ら学習や指導の妨げとなっていない場合であってもそこには当然何らかの教育的な処置がとられなければならないであろう。かりにそうした生徒が無視され、見捨てられてしまうならば、その生徒個人にとっても、また、同時に学習する他の生徒たちにとっても、不幸なことであるといわれねばならない。私たちはそうした学習に対して、積極的に参加し得ない何らかの問題をもっている生徒を抽出し、その生徒の学習意欲の欠けるに至った原因を分析し、それに対しての治療を試みたいと考えた。

II. 研究方法

本年度のはじめ、教科部門の保健体育科部門関係の教育学部と、附属の教官九名が集まり、この研究計画について種種討議した。そして研究対象として、本校の中学校2年生を取りあげることとした。それは生徒の質的構成のうえから、中学校の1年生と2年生を対象にしたいと考えたのであるが、1年生はカリキュラムのうえから教材が小学校の教材との転換期にあり、学習意欲に変化が考えられるが、2年生は中学校の各教材について、一応一通り学習し、中学校と小学校とのカリキュラムの相違を知り、それによる意欲の変化が終っていることが考えられるので、中学校2年生のみを対象とすることとした。そのうえ私たち3名の体育科教員が、何らかの形で中学校2年生の授業にタッチしており、特に治療担当の稲山教官が、前年度学級担任であり、現在も副担任をしていること等から、中学2年生をやりやすい対象として選び、

この研究の第一歩をふみ出し、それによって得た経験を元として、しだいに他の学年にも押し進めてゆきたいと考えたからである。そこでこの中学校2年生に対して調査、観察、面接等によって、男子と女子の意欲差、又研究対象となるような極端な意欲欠如者が、一体どのくらいあるだろうか。また、そうした意欲欠如者を抽出する適切な方法、治療の具体的な方法について以後の研究を進めてゆきたいと考えた。

Ⅲ. 研究経過の概要

意欲欠如者といっても、突然に起きた新しい何らかの問題によって、最近まで積極的に学習に参加していた生徒が、急に意欲がなくなったというのはよくわかり、目につくのであるが、今までどちらかといえば私たちが、ばく然とそう感じてみてきた生徒や、私たちの目には積極性があるようにみえても、実際その生徒にとっては学習が、苦痛であるというような場合があるのではないだろうか。こうした懸念から、どういう方法で意欲欠如者を抽出するか、また、極端な意欲欠如者として、どの程度の者をどの位の人数を抽出するかということが第一に問題になった。そこで私たちは意欲欠如者をその意欲欠如の程度によって、大きく次のような2つの型に分けて整理した。第一の型は身体活動そのものに対して、すでに積極的意欲がわかぬという型であって、このような生徒にとっては体育の学習が、身体活動を通じて行なわれる以上、身体活動をすることそのものに意欲がないということは、体育の学習に対してはどうにも意欲のもちようがないということになる。

次に第二の型は、教材に対する好き嫌いが非常に強く、好きな教材には意欲が強く表われるが、嫌いな教材には積極的な学習意欲がわかないという型であって、このような生徒達は、第一の型とは全然異り、身体活動そのものに対しては、意欲があるという生徒であるのだが、それが教材によって著るしいかたよりがある場合である。そしてどこにそのかたよりの原因があるかは、いろいろであって、ただ単に、その教材の性格や、学習方法に原因があるというばかりでなく、その教材を学習するときのグループ

を構成する人間関係や、自己の技術の程度によっても左右されるものであって、第一の型よりも意欲欠如の程度が軽いのではないかと考えられる。そこで、まず第一の型の生徒をとりあげることとし、第二の型については次の機会にゆずることとした。

第一の型の身体活動そのものに対して、すでに積極的な意欲がわからないという生徒の抽出であるが、大体この年頃の子供であって、身体活動に意欲がないなどということは、およそ考えられないことであって、身体的なまたは精神的な欠陥や病気でない以上は、おそらく本当の意欲欠如者ではなく、皆と同じように、時には他の生徒たち以上に強い意欲をもっている場合が多いのではないだろうか。ただ、それが何らかの形で他から圧力を加えられ、その圧力によって心ならずもそうさせられている場合が多いのではないだろうか。それならば、なおさらその圧力となっているものを排除してやることに力を貸し、そうした生徒にも内におさえられている学習意欲を、表面に引き出してやることのできないものだろうか。しかし、その圧力となっているものが体育の分野で解決してやれない場合もでてくる。学級担任や、家族や、友人関係と、その他あらゆる分野の問題となるだろう。私たちは体育科の教師として、同時に教育者として、体育の場にあられた生徒の問題に対して、たとえそれが他の分野に原因をもつても、その生徒の問題解決のための協力者となり、同時に学級担任、父兄、その生徒の友人ともよく話し合い、問題解決の方法を考え、ケース・スタディの成果をあげたいと考えた。

Ⅳ. 現在までの成果

1. カリキュラム

まず、中学2年生という研究対象の中から、更に私たちがいま問題としてとりあげようとする極端な身体活動に対する意欲欠如者を抽出する仕事に入るまえに、本研究の基盤となる本校の体育科学習カリキュラムについてのべたい。

(1) 時間配当

中学校高等学校共に1・2年生は、体育週2

体育における学習意欲欠如者の抽出およびその治療について

時間、保健は週1時間、3年生は体育週3時間で、3カ年に9単位(9時間)である。

(2) 構成方針

a) シーズン制と、行事との関連を考慮

シーズンは春(秋)夏、冬に別れ、クラブ活動は2期制とし、希望参加により選手制度をとらず、対外試合は行わない。クラブの設置は、前期(陸上、バレー、テニス、バドミントン)、後期(陸上、サッカー、ハンドボール、バスケットボール、ピンポン、フォークダンス)とする。校内大会や行事は教材の学習期の末期において行い、その効果を評価する。(表1年間計画)

b) 六カ年継続カリキュラム

中学校、高等学校との関連から、六カ年カリキュラムを考えている。付属中学校よりの進学者が多数あり、カリキュラムの上では計画が立てやすい。(表5,6,7,8陸上競技、サッカーの指導計画参照)

c) 系統的な学習法を行う

本校における体育科の学習は教材を中心に漸進反復して展開している。中学校、高等学校の時期は心身の発達の大なる時期であるから、同一教材であってもその技術の学習程度や、心的影響に変化があり、生徒にとって常に同一教材とはいえない。体育の目標である社会性、人間関係の発達および運動の生活化は勿論重要であるが、第一に体育科の特性である身体を通しての学習、すなわち運動により、身体的発達の完成を計ること。特に各教材群共基礎的能力の習得に重点を置き、本校の研究課題である基礎教育のあり方の研究の一端を担当してい

る。

基礎的能力が不十分であれば、その生活化は困難であり、友達と遊ぶこともできず良い人間関係も生まれない。

(3) 運動種目別群の配当

中学校、高等学校ともに個人的な種目は低学年に多く、レクリエーション的な種目は高学年に配当の比重を多くして、基礎的能力の習得を低学年において特に重視する。(表2,3参照)

a) スポーツに対する取扱い

中学校においては、既成のスポーツを目標とせず、リード・アップ・ゲームから簡易ゲームの段階に止めてある。学習は生徒の発達段階の欲求に従うのが原則で、既成スポーツの消化は困難である。高等学校は一応普通教育の完成が目標であるから、正規に準じたゲームを行い得る事を目標としている。

b) 基礎的教材の抽出

昭和31年の高等学校指導要領をカリキュラム構成の基準とし、中学校は昭和26年の要領を参考資料としている。すなわち、中学校、高等学校一貫カリキュラムの主体制を、高等学校に置いている理由は、中学校指導要領が近く改正され、昭和31年の高等学校の線との関連がとられるとの予想の上に立っている。本校の運動場や設備、教官組織の面から教材の選択は少数重点主義を方針としている。

c) 各教材群の学年別基礎的能力の到達目標は、研究課題として、今後継続して研究してゆきたい。

表 1 年 画 計 画 間

学 期	I							II					III					授 業 時 数						
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	28	29	30	31		32	33	34	35	36	
高 校	1 週	男	徒手体操	ソフボール	バレポ	巧技	バレポ	卓球	徒手体操	ソフボール	陸上競技	テニス	サカ	徒手体操	陸上競技	卓球	陸上競技	卓球	陸上競技	卓球	陸上競技	卓球	陸上競技	72
		女	"	"	バレポ	巧技	バレポ	ダンス	徒手体操	ソフボール	陸上競技	テニス	サカ	徒手体操	陸上競技	卓球	陸上競技	卓球	陸上競技	卓球	陸上競技	卓球	陸上競技	72
	2 週	男	徒手体操	ソフボール	バレポ	巧技	バレポ	卓球	徒手体操	ソフボール	陸上競技	テニス	サカ	徒手体操	陸上競技	卓球	陸上競技	卓球	陸上競技	卓球	陸上競技	卓球	陸上競技	72
		女	"	"	バレポ	巧技	バレポ	ダンス	徒手体操	ソフボール	陸上競技	テニス	サカ	徒手体操	陸上競技	卓球	陸上競技	卓球	陸上競技	卓球	陸上競技	卓球	陸上競技	72
	3 週	男	徒手体操	ソフボール	バレポ	巧技	バレポ	卓球	徒手体操	ソフボール	陸上競技	テニス	サカ	徒手体操	陸上競技	卓球	陸上競技	卓球	陸上競技	卓球	陸上競技	卓球	陸上競技	108
		女	"	"	バレポ	巧技	バレポ	ダンス	徒手体操	ソフボール	陸上競技	テニス	サカ	徒手体操	陸上競技	卓球	陸上競技	卓球	陸上競技	卓球	陸上競技	卓球	陸上競技	108
中 学	1 週	男	徒手体操	ソフボール	バレポ	巧技	バレポ	陸上競技	徒手体操	ソフボール	陸上競技	巧技	サカ	徒手体操	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	72	
		女	"	"	バレポ	巧技	バレポ	ダンス	徒手体操	ソフボール	陸上競技	巧技	サカ	徒手体操	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	72	
	2 週	男	徒手体操	ソフボール	バレポ	巧技	バレポ	陸上競技	徒手体操	ソフボール	陸上競技	テニス	サカ	徒手体操	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	72	
		女	"	"	バレポ	巧技	バレポ	ソフボール	徒手体操	ソフボール	陸上競技	テニス	サカ	徒手体操	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	72	
	3 週	男	徒手体操	ソフボール	バレポ	巧技	バレポ	陸上競技	徒手体操	ソフボール	陸上競技	テニス	サカ	徒手体操	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	108	
		女	"	"	バレポ	巧技	バレポ	ダンス	徒手体操	ソフボール	陸上競技	テニス	サカ	徒手体操	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	108	
学 校 行 事	身体検査	遺足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	足	期末考査	
	中3 修学旅行	中間テスト	中間テスト	中間テスト	中間テスト	中間テスト	中間テスト	中間テスト	中間テスト	中間テスト	中間テスト	中間テスト	中間テスト	中間テスト	中間テスト	中間テスト	中間テスト	中間テスト	中間テスト	中間テスト	中間テスト	中間テスト	期末考査	
	生徒会行事	ソフボール大会	ソフボール大会	ソフボール大会	ソフボール大会	ソフボール大会	ソフボール大会	ソフボール大会	ソフボール大会	ソフボール大会	ソフボール大会	ソフボール大会	ソフボール大会	ソフボール大会	ソフボール大会	ソフボール大会	ソフボール大会	ソフボール大会	ソフボール大会	ソフボール大会	ソフボール大会	ソフボール大会	期末考査	

表 2 中学校学年別、性別、運動種目別群比率 (単位週)

教材	男				女			
	学年 I	II	III	3年間配当 (週単位)	学年 I	II	III	3年間配当 (週単位)
体育理論	9%	9%	9%	9	9%	9%	9%	9
個人的種目	47%	41%	33%	44	22%	22%	22%	24
徒手体操	3	2	1	6	2	2	2	6
巧技	6	5	5	16	2	2	2	6
陸上競技	7	7	5	19	3	3	3	9
基礎体力テスト	1	1	1	3	1	1	1	3
団体的種目	33%	36%	36%	38	30%	30%	30%	33
バレーボール	3	3	3	9	4	4	4	12
バスケットボール	3	3	3	9	4	4	4	12
ハンドボール	3	3	3	9	3	3	3	9
サッカー	3	4	4	11				
レクリエーション的種目	11%	14%	22%	17	17%	19.5%	19.5%	20
ソフトボール	4	3	4	11	4	3	3	10
テニス		2	2	4	0	2	4	6
卓球			2	2	2	2		4
水泳	(必) 20時間	(選) 20時間	(選) 20時間		(必) 20時間	(選) 20時間	(選) 20時間	
ダンス					8	7	7	22

表 3 高等学校学学年別、性別、運動種目別群比率(単位週)

		男				女			
教材	学 年	I		II		III		3年間配当 (週単位)	
		9%	3	9%	3	9%	3	9%	3
体育理論		9%	3	9%	3	9%	3	9%	3
個人的種目		41%	15	33%	12	27.5%	10	37	17
徒手体操			2		1		1	4	4
巧 技			6		5		4	15	6
陸上競技			6		5		4	15	4
基礎体力テスト			1		1		1	3	3
団体的種目		36%	13	36%	13	36%	13	39	33
バレーボール			4		4		4	12	12
バスケットボール			3		3		3	9	2
ハンドボール			3		3		3	9	9
サッカー			3		3		3	9	
レクリエーション的種目		14%	5	22%	8	27.5%	10	23	28
水 泳			(3)						
テニス			2		3		3	8	8
卓 球			1		2		3	6	6
ソフトボール			2		3		4	9	11
バドミントン									3
タ ン ス									21
レクリエーション的種目		22%	8	25%	9	30%	11	28	
水 泳			(3)						
テニス			2		3		3	8	8
卓 球			2		2		2	6	6
ソフトボール			4		4		3	11	11
バドミントン									3
タ ン ス		19.5%	7	19.5%	7	19.5%	7	21	21

表 4 中学校バレーボール指導計画

目標	バレーボールに対する基礎技術の修得をはかりコンビネーションにより協同精神を養う										備考	
	週時間		1		2		3		4			
学年	性別	1	2	3	4	5	6	7	8			
1	男	6月 パス練習 チェスターパス アンダーパス	6月 パス練習 サーブとレシーブ アンダーハンド (サイドハンド チェスターレシーブ アンダーレシーブ)	6月 パス練習 サーブとレシーブ アンダーハンド (サイドハンド チェスターレシーブ アンダーレシーブ)	6月 簡易ゲーム (オーバータイムなし) パス, サーブテスト	6月 簡易ゲーム (オーバータイムなし) パス, サーブテスト	6月 簡易ゲーム (オーバータイムなし) パス, サーブテスト	6月 簡易ゲーム (オーバータイムなし) パス, サーブテスト	6月 簡易ゲーム (オーバータイムなし) パス, サーブテスト	6月 簡易ゲーム (オーバータイムなし) パス, サーブテスト	6月 簡易ゲーム (オーバータイムなし) パス, サーブテスト	一、バレーボール大会を六月中旬に行う。
	女	5月 同 上	5月 同 上	5月 同 上	5月 同 上	5月 同 上	5月 同 上	5月 同 上	5月 同 上	5月 同 上	5月 同 上	
2	男	6月 パスとサーブ練習	6月 攻撃練習 タッチ攻撃 防禦 ネットブレイク ストロップ(1人と2人)	6月 攻撃練習 タッチ攻撃 防禦 ネットブレイク ストロップ(1人と2人)	6月 簡易ゲーム タッチ攻撃 ストロップとオーバー 審判法	6月 簡易ゲーム タッチ攻撃 ストロップとオーバー 審判法	6月 簡易ゲーム タッチ攻撃 ストロップとオーバー 審判法	6月 簡易ゲーム タッチ攻撃 ストロップとオーバー 審判法	6月 簡易ゲーム タッチ攻撃 ストロップとオーバー 審判法	6月 簡易ゲーム タッチ攻撃 ストロップとオーバー 審判法	6月 簡易ゲーム タッチ攻撃 ストロップとオーバー 審判法	
	女	5月 同 上	5月 同 上	5月 同 上	5月 同 上	5月 同 上	5月 同 上	5月 同 上	5月 同 上	5月 同 上	5月 同 上	
3	男	6月 パスとサーブ タッチ ネットブレイク ストロップ	6月 キル練習 乱打 簡易ゲーム コンビネーション 攻防法	6月 キル練習 乱打 簡易ゲーム コンビネーション 攻防法	6月 正規のルールによるゲーム 審判法 遅攻法 速攻法	6月 正規のルールによるゲーム 審判法 遅攻法 速攻法	6月 正規のルールによるゲーム 審判法 遅攻法 速攻法	6月 正規のルールによるゲーム 審判法 遅攻法 速攻法	6月 正規のルールによるゲーム 審判法 遅攻法 速攻法	6月 正規のルールによるゲーム 審判法 遅攻法 速攻法	6月 正規のルールによるゲーム 審判法 遅攻法 速攻法	
	女	5月 パスとサーブ	5月 タッチ ネットブレイク ストロップ	5月 キル 遅攻法 防禦システム	5月 簡易ゲーム 乱打	5月 簡易ゲーム 乱打	5月 簡易ゲーム 乱打	5月 簡易ゲーム 乱打	5月 簡易ゲーム 乱打	5月 簡易ゲーム 乱打	5月 簡易ゲーム 乱打	

表 5 中 学 校 陸 上 競 技 指 導 計 画

目 標	陸上競技に対する興味と技能をたかめ、身体的発達をはかり、自己の基礎的運動能力を認識させる。														備 考	
	性 別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13		14
1	男	6月 走の基本 前傾、足のふり こび方 腕の振り 短距離走 スタート法 中間疾走 (50m走) 10月 同上 リレー	7月 立巾とび 走巾とび 助走 ふみきり そりとび	10月 砲丸投 4kg もち方 フォーム	10月 リレー 1. バトントップ 2. オープンコー トナー	10月 体育大会練習	10月 体育大会種目 練習	11月 中距離走 400~1,000m フォーム 呼吸法	1月 長距離走 1,500m							
	女	10月 同上	10月 同上	1月 長距離走 5分												
2	男	6月 1年に同じ	7月 砲丸投 4kg	10月 走高とび 助走 ふみきり フォーム (はさみとび)	10月 障害走 ハード ドリリング 中間走法	10月 同左	10月 体育大会 種目練習	1月 1年同上	1月 長距離走 2,000m							
	女	10月 同上 リレー	10月 走高とび はさみとび													
3	男	1 2 3 4 5 6 6月 短距離走 100m	7月 砲丸投 4kg	10月 走高とび はさみとび	10月 障害走 ハード ドリリング 中間疾走	10月 リレー 陸上競技法 体育大会種目練習	10月 リレー 陸上競技法 体育大会種目練習	10月 陸上競技法 体育大会種目練習								
	女	9月 障害走 60m ハード ドリ ング、中間走	10月 リレー 陸上競技法 体育大会種目練習	1月 長距離走												

表 6 高等学校陸上競技指導計画

目 標	陸上競技に対する興味と技能をたかめ、走跳投の基礎的能力と、身体支配力の向上をはかり、自己の運動能力を認識させる。												備 考		
	学 年	性 別	週 時間			1	2	3	4	5	6	11		12	
1	男	女	10月	走 短距離走(100) 走の基本 中間疾走 跳立市跳、走 市跳	10月	走 短距離 リレー 跳 同左	10月	走 助走 1. ふみきり 2. フォーム (はさみ跳)	10月	走高跳 測定 (ロールオーバー)	10月	中距離走 400~1,500m	10月	長距離走 2,000m	一、十月体育大会 二、一月マラソン大会
2	男	女	10月	短距離走, リレー 走の基本, 出発法 中間疾走, 測定	10月	跳 走中跳 立市跳	10月	跳 走中跳 立市跳	10月	障害走 (低)ハンドリング インターバル走 法	10月	障害走 200m	10月	長距離走 2,000m	
3	男	女	9月	走 短距離走200m 中間疾走力をつける 跳 走中跳	10月	走 跳 走中跳	10月	走 跳 走中跳	10月	走 リレー 跳 走中跳	10月	走 跳 走中跳	10月	走 跳 走中跳	
	男	女	10月	短距離走 100~200m 三段跳	10月	走 100~200m リレー 三段跳	10月	走 100~200m リレー 三段跳	10月	走 100~200m リレー 三段跳	10月	走 100~200m リレー 三段跳	10月	走 100~200m リレー 三段跳	

表 7 中 学 校 サ ッ カ ー 指 導 計 画

目 標	サッカーに対する興味と基礎技術の修得をはかり、敏捷、持久力の向上と協同、服従の社会性の発展をはかる。								備 考	
	性 別	学 年	1	2	3	4	5	6		7
1 男	1	11月	導入 サッカーの歴史とその概略(円陣, 対列)	既習教材復習 キックの練習	簡易サッカーの理解 ゴールキーパーの準備	12月	簡易サッカーの理解 ゴールキーパーの準備	12月	簡易サッカーの理解 ゴールキーパーの準備	○各学年人員は50～52名 ○ゲームは4チーム編成 同一学年間はチームを固定 ○雨天時においてスライドにより基本ならびにフォーメーションの研究を行う。
			1. サッカーに対する興味と個人的基礎的技術を修得させる。 2. 団体的種目の目標たる協同精神の向揚をはかる。	11月 基本練習 キックの練習 ドリブル パス	11月 基本練習 キックの練習 ドリブル パス	11月 基本練習 キックの練習 ドリブル パス	11月 基本練習 キックの練習 ドリブル パス	11月 基本練習 キックの練習 ドリブル パス	11月 基本練習 キックの練習 ドリブル パス	
2 男	2	11月	基本練習 キックの練習 ドリブル パス	基本練習 キックの練習 ドリブル パス	基本練習 キックの練習 ドリブル パス	11月	基本練習 キックの練習 ドリブル パス	11月	基本練習 キックの練習 ドリブル パス	○各学年人員は50～52名 ○ゲームは4チーム編成 同一学年間はチームを固定 ○雨天時においてスライドにより基本ならびにフォーメーションの研究を行う。
			1. 同上 向上をはかる 2. 攻防における簡易な基礎的なものを修得し協同の精神を養う。	11月 基本練習 キックの練習 ドリブル パス	11月 基本練習 キックの練習 ドリブル パス	11月 基本練習 キックの練習 ドリブル パス	11月 基本練習 キックの練習 ドリブル パス	11月 基本練習 キックの練習 ドリブル パス	11月 基本練習 キックの練習 ドリブル パス	
3 男	3	11月	基本練習 キックの練習 ドリブル パス	基本練習 キックの練習 ドリブル パス	基本練習 キックの練習 ドリブル パス	11月	基本練習 キックの練習 ドリブル パス	11月	基本練習 キックの練習 ドリブル パス	○各学年人員は50～52名 ○ゲームは4チーム編成 同一学年間はチームを固定 ○雨天時においてスライドにより基本ならびにフォーメーションの研究を行う。
			1. 同上 2. 同上 3. ルールに対する理解力をふかめ、審判法を体得させる。 4. 攻防における協同動作を養う。	11月 基本練習 キックの練習 ドリブル パス	11月 基本練習 キックの練習 ドリブル パス	11月 基本練習 キックの練習 ドリブル パス	11月 基本練習 キックの練習 ドリブル パス	11月 基本練習 キックの練習 ドリブル パス	11月 基本練習 キックの練習 ドリブル パス	

表 8 高等学校サッカー指導計画

目標	サッカーの基礎的技術の向上と、ゲームによってよって人間関係の向上と、筋力、持久力、支配力の向上をはかる。						備考		
	学年	性別	週	時間	1	2			
1	男	1	1	2	基本 キック、インステップ、インサイド、ボレー トラッピング (体, 足) ドリブル 1人, コンビ ヘッドイング シュート ペナルティキック (正面より 側方より 3人迄) パスワーク	3 ハーフサッカー 攻防練習 F.Wのコンビ ネーション ロビング 戦法 バックの守備 コンビネーション (浅い守備 深い守備)	4 簡易サッカー オフサイドをと らない。 速攻とウイング 攻撃 2B戦法の防禦	5 正規ルールによるゲーム ルールの理解 審判の方法 F.Wのコンビ F.WとBのコンビ 防禦システムの研究	6
2	男				基本 同上	簡易サッカー 正面とウイング攻撃 センターリング シヨートパス ロビング戦法 防禦 2B防禦を中心にG.KとF.Bの 連絡	正規ルールによるゲーム 同上		
3	男				1 基本 同上	1 攻防練習 ハーフサッ カー F.Wのコンビ ネーション F.WとBのコンビ ネーション シュートパス戦法 バックの守備 (浅いもの 深いもの)	2 総合練習 ハーフサッ カー F.Wのコンビ ネーション F.WとBのコンビ ネーション シュートパス戦法 バックの守備 (浅いもの 深いもの)	3 簡易サッ カー 正規のルールによるゲーム 同上	3

2. 抽 出

そこで、いよいよ意欲欠如者抽出の作業であるが、ただ教師の授業時における観察だけでなく、それを裏づけるデーターにより、私たちのねらう生徒と、そうでない生徒の間に、区切りの一線がひけないものだろうかという考えから次のような2つの調査を試みた。

調査 1

運動することは好きですか、嫌いですか。
 体育の学習ばかりでなく、課外の運動クラブの活動や、その他身体活動すべてについて考えて、自分がどれにあたるか○印でかこみなさい。

大嫌い 嫌い どちらともいえない
 好き 大好き

調査 2

ここに、1年生のときからの体育の教材があげてあります。このうちで、あなたの大好きなものにはA、好きなものにはB、どちらともいえないものにはC、嫌いなものにはD、大嫌いなものにはEの記号をその教材の横の()の中に書き入れなさい。

() ソフトボール () 長距離走
 () バレーボール () 徒手体操
 () ハンドボール () ×鉄棒
 () バスケットボール () 跳箱
 () ×サッカー () マットワーク
 () 走巾跳 () △平均台
 () ×走高跳 () △フォークダンス
 () 短距離走 () △ダンス

×印 男子のみ
 △印 女子のみ

身体活動の嫌いな生徒を抽出するために、直接的な質問を試みたのが調査1であり、その整理の結果は表9のようになった。

表9 身体活動の好き嫌い

		大嫌い	嫌い	どちらともいえない	好き	大好き	計
男	人員	0	0	3	25	25	53
	%	0	0	6	47	47	100
女	人員	0	1	12	25	15	53
	%	0	2	23	47	28	100
計	人員	0	1	15	50	40	106
	%	0	1	14	48	37	100

この表から、まず男子の94%、女子の75%、あわせて85%の生徒は「大好き」と「好き」の部類に入っており、嫌いといったのは僅かに女子に1名あっただけである。このことは前にのべたように普通ならば、この年令で「身体活動が嫌いだ」などという生徒はないであろうという考えに一致していると考えられる。ただ「どちらともいえない」という解答は、「好き」と「嫌い」両方の判断材料をもちあわせている生徒とみられ、時と場合によってはどちらにでも傾くと思われる。次に男女差については男女の本質的な相違からくる自然なものであろうと想像される。

次にこうした身体活動の好き嫌い と 体育の教材との関係を調べてみようとしたのが調査2で、おそらく身体活動を好まない生徒は、学習教材のいかに問わず、全て嫌いというだろうし、逆に多くの教材を嫌いだという生徒は、当然学習に興味をもてず、運動の嫌いな身体活動を避ける生徒であろうという仮説の下に調べてみた。そして調査2について、Aを5点、Bを4点、Cを3点、Dを2点、Eを1点として個々の生徒の個人点を計算してみた。その結果が表2で、私達はこれを生徒の教材意欲点と名付けた。

表10 教材意欲点の分配 (人員)

	31	34	37	40	43	46	49	52	55	58	61	計
	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60	63	
男	2	4	4	8	8	8	11	6	2	0	0	53
女	3	12	6	10	10	5	4	2	0	0	1	53
計	5	16	10	18	18	13	15	8	2	0	1	106
	男 M=45.6 S.D=6.2											
	女 M=41.5 S.D=5.7											

これからわかるように表9にみられたと同様の男女差がみられる。しかしこの表だけでは表1との比較のしようがないので、表1と同じように「大嫌い」から「大好き」までの5段階に分けてみることを考えた。そこで、かりに教材意欲点の一番少ない生徒、すなわち全教材にEをつけた生徒の得点が13点であり、全教材にA

をつけた生徒の得点が65点となるから、13点から65点までのあいだ、各個人の得点が正常分配曲線をかくものと仮定し、99.99%の得点の分配領域をとって、平均値±4シグマとして計算すると1シグマが6.5点となる。そこで5段階分割法によって平均値±0.5シグマ±1.5シグマの5つの領域に分け、一番得点の低い領域から順に、「大嫌い」「嫌い」「どちらともいえない」「好き」「大好き」と5つの領域とし、表10をあてはめてみた。それが表11である。

表11 正常分配曲線の五段階分割にあてはめた教材意欲点の分配 (人員)

得点の分配	大嫌い	嫌い	どちらともいえない	好き	大好き	計
	13~29	30~35	36~42	43~48	49~65	
男	0	4	14	16	19	53
女	0	9	22	15	7	53
計	0	13	36	31	26	106

そこで調査1と調査2が相関するだろうという仮説を確かめるために相関表を作った。身体活動を好まない意欲のない生徒は学習教材のいかにかわらず多くの教材に「嫌い」が出て教材意欲点が低く、逆に教材意欲点の低い生徒は学習に意欲がもてず、「身体活動は嫌い」とでるのではないだろうか。

表12からわかるように男子と女子の相関係数にひらきがあり、ダビッドの図表による信頼限界も男子は0.02~0.53、女子は0.37~0.73と頻数が少ないために大分左右に大きくひらいていて強い相関があるとはいいきれない。これで私達がはじめにたてた仮説にあやまりがあったことになる。そのあやまりの原因を究明するために教材意欲点の算出の方法についてあらためて考えなおし、生徒のつけた評価を個人ごとでなしに、教材ごとに整理してみた。それが表13である。

表13からわかるように生徒の教材意欲点から得た教材得点(表中の換算得点)には教材の性格にもよるのだろうが123点から245点と120点ものひらきがあり、球技のように「大好き」「好き」が多く、「嫌い」「大嫌い」の少ない教材の中で「嫌い」とか「大嫌い」といっているもの

のと、「嫌い」「大嫌い」の多い教材、たとえば男子の鉄棒や女子の長距離走のような教材にあって「嫌い」「大嫌い」といっているものが同じ立場でそれぞれ単に一点として処理されており、又教材は学習時間数にちがいがあり、バレーボールのように教材のうちでは多くの時間をかけて指導されるものも、学習時間数の少ない教材、たとえば走巾跳のような教材も時間数に関係なく、同じウェイトでそれぞれ一点として処理されていることである。一方、学習時にはあまり意気があがらないけれども、放課になると見違えるように元気になる生徒、「嫌い」「大嫌い」とする要因を教材の目的、教材の性格、学習時の人間関係、学習指導法等が気にいらぬという生徒がある。そうしたようなことが調査1と調査2との相関が余り高い率にならなかった原因であろうと考えられる。そこで私達は調査1を裏付けるためにおこなった調査2を抽出のための資料とすることからはぶくこととした。

表12 調査1と調査2との相関 (実人員)
男子 $r=0.305$

調査1 \ 調査2	大嫌い	嫌い	どちらともいえない	好き	大好き
大 好 き			1	6	12
好 き				9	7
どちらともいえない				9	5
嫌 い		2	1	1	
大 嫌 い					

女子 $r=0.599$

調査1 \ 調査2	大嫌い	嫌い	どちらともいえない	好き	大好き
大 好 き				2	5
好 き			2	8	6
どちらともいえない			8	12	5
嫌 い		1	2	2	
大 嫌 い					

次に夏休みの宿題「体育の学習の好き(嫌い)になった動機」あるいは「体育の学習に抱いている喜び(悩み)」という題をあてて書かせた

表13 教 材 評 価 (人員)

		ソポ フール	パボ レール	ハボ ンドル	バト ボール	サッ カー	走 巾 跳	走 高 跳	短 距 離 走	長 距 離 走	徒 手 体 操	鉄 棒	跳 箱	マワ ットク	平 均 台	フダ オクス	ダ ンス
男	大 好 き	36	11	9	8	25	4	2	8	3	4	4	7	7			
	好 き	14	22	24	15	17	20	15	15	15	19	14	15	10			
	どちらとも いえない	3	17	16	26	11	22	26	13	18	16	16	21	18			
	嫌 い	0	2	3	4	0	6	10	9	11	11	15	7	11			
子	大 嫌 い	0	1	1	0	0	1	0	8	6	3	4	3	7			
	換 算 得 点	245	199	196	186	226	179	168	165	157	169	158	175	158			

		ソポ フール	パボ レール	ハボ ンドル	バト ボール	サッ カー	走 巾 跳	走 高 跳	短 距 離 走	長 距 離 走	徒 手 体 操	鉄 棒	跳 箱	マワ ットク	平 均 台	フダ オクス	ダ ンス
女	大 好 き	25	18	8	22		2		3	1	3		6	2	3	7	2
	好 き	17	22	12	20		11		10	10	14		14	10	12	13	15
	どちらとも いえない	8	12	24	11		21		15	13	25		14	17	23	19	20
	嫌 い	3	0	9	0		15		15	10	8		10	18	12	12	15
子	大 嫌 い	0	1	0	0		4		10	19	3		9	6	3	2	1
	換 算 得 点	223	215	178	223		151		140	123	165		157	143	159	170	161

作文を整理した。その中には私達が予期したものとは異なった考え方によって作文したもの、あるいは個々の教材についての部分的な問題を提出したもの等いろいろで、その整理にはそうしたものはぶき、私たちが抽出しようとする意図にかなったもの、身体活動が嫌いになった「動機」や「悩み」をうったえた生徒を数名抜き出した。そして調査1において「嫌い」「どちらともいえない」とした生徒で、作文でも抜き出され、さらに教師の観察からも研究対象となるとマークされた、全ての面からみて身体活動が嫌いと思われる生徒数名を研究対象として抽出した。

この抽出にあたって考えさせられたことは、第一に男子と女子とでは身体活動そのものに対する意欲という点では可成りの差があるということ、第二に対象としようとした身体活動その

ものが極端に嫌いだという生徒は非常に少ないということ、第三に調査1、調査2（放棄）作文、観察等の他にもっと抽出のための適切な教育心理学的な調査の方法が考えられないだろうかということであった。

3. 診 断

さてこうして抽出された生徒について、その原因の究明と治療について考えた。そこでまずそれらの生徒の個人指導票を作った。その内容は読書指導の研究におけるケース・スタデーと同様、つぎのような項目にしたがって個人票を作成した。

(一) 問 題

(二) 個 人

1. 人格的特性

- 全体的特性
- 行動の記録
- 家族間の人間関係
- 学校における人間関係
 - 1. 教師との関係
 - 2. 友人との関係
- 遊び、趣味、娯楽
- 希望や理想
- 性格検査の記録
- 2. 学業成績
 - 学業成績の概況
 - 学習の記録
 - 標準学力検査の記録
 - 学習興味診断テストの記録
 - 教科に対する興味調査の記録
 - 精神検査の記録
- 3. 身体状況
 - 健康の概況
 - 身体的欠陥
 - 過去の疾病
 - 身体検査の記録
- (三) 環境
 - 1. 家庭環境
 - 家庭の状況
 - 家庭の生活程度
 - 1. 経済的水準
 - 2. 社会的地位
 - 両親の子供に対する態度
 - 1. 情緒的傾向
 - 2. しつけ
 - 3. 学習への配慮
 - 生活環境に対する生徒の感じ方
 - 家での交友関係
 - 2. 生育歴
 - 現在までに起った大きな事から
 - 1. 健康上
 - 2. 学習上
 - 3. 生活上
- (四) 体育に関して
 - 1. 精神的な面
 - 本人のスポーツ全般に対する考え方
 - 本人の体育の授業に対する考え方
 - 体育が嫌いになった動機、時期

- 体育授業時の友人関係
- 体育教官との人間関係
- 調査1の記録
- 調査2の記録
- 作文の内容
- 2. 身体的な面
 - 運動クラブ歴
 - 現在入っている運動クラブ
 - 好きなスポーツ
 - 嫌いなスポーツ
 - 走、跳、投の記録
 - サージェントジャンプ、バービーテストの記録
 - 平田式体格、体力総合判定の記録
- 3. 環境的な面
 - 家族のスポーツ歴
 - 家族のスポーツ全般に対する考え方
 - 子供の頃の遊び場
 - 子供の頃の遊びの種類
- (五) 診断
- (六) 処置

以上のような個人票を諸調査、検査、テスト観察、学級担任教官の助言等によって作成、さらに概当生徒と体育の授業担当教官との面接によって個々の生徒のもっている問題の原因がどこにあるかを分析追求した。ここにそのケースについて詳細にのべたいけれども現段階が研究中途であるために未だその期でないことを非常に残念に思う。

V. 今後の見通し

現在研究対象として抽出した生徒に対して治療の段階であるが、まだ私達が予期したように、それらの生徒が果して身体活動そのものが好きになるかどうかはわからない。しかし、いづれにしても処置に対してはその資料を累積し、継続的に追跡して今後の研究の参考にした。そして更に前にのべたように第二の問題、すなわち教材のちがいによる意欲の変化についても研究を進めてゆきたい。

なおこの研究を進めるにあたっては教育学部の重松教授、石黒助教授、丸井講師ならびに教養部の川村教授の御指導と御助言をいただいた。

共 同 研 究

表 14 診断のために使用した中学2年生女子の体育関係諸検査の資料

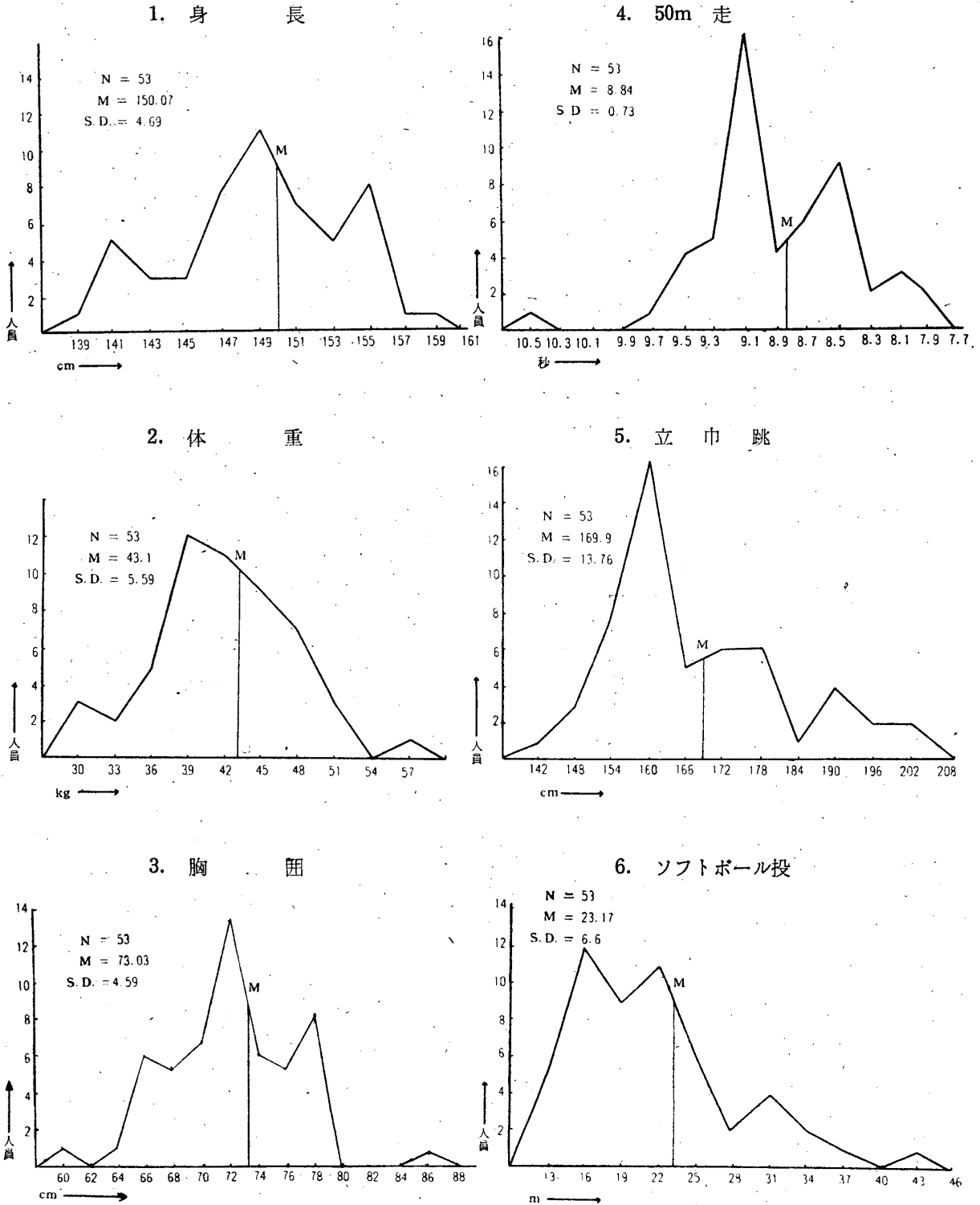


表15 A組. バレーボールのチーム編成のための希望調査にあらわれた社会図式的マトリックス

選手者 被選取者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	P.V.R	M.P.V	社会図式 的水準
1		x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	16	4	
2	x		x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	16	3	
3	x	x		x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	15	2	
4	x	x	x		x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	9	2	
5	x	x	x	x		x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	7	4	VI
6	x	x	x	x	x		x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	7	3	
7	x	x	x	x	x	x		x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	7	2	
8	x	x	x	x	x	x	x		x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	6	1	
9	x	x	x	x	x	x	x	x		x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	1	1	
10	x	x	x	x	x	x	x	x	x		x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	3	2	
11	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	2	2	V
12	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	2	2	
13	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	3	1	IV
14	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	1	1	
15	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	1	1	III
16	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		x	x	x	x	x	x	x	x	x	1	1	
17	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		x	x	x	x	x	x	x	x	3	0	
18	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		x	x	x	x	x	x	x	1	0	
19	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		x	x	x	x	x	x	1	0	
20	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		x	x	x	x	x	1	0	II
21	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		x	x	x	x	1	0	
22	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		x	x	x	1	0	
23	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		x	x	0	0	
24	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		x	0	0	
25	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		0	0	I
26	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0	0	

共 同 研 究

B組.

選取者 敬選者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	P.V.R	M.P.V	社会図式 的水準
1	X	X	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X			X	X	X		X						14	3	V	
2	X		X	X													X									4	3	V	
3	X	X	X	X																						3	3	V	
4	X	X	X	X																						3	3	V	
5		X				X	X	X	X	X	X	X	X			X	X	X				X				13	1	IV	
6					X		X	X		X		X	X				X	X					X			9	3	IV	
7		X				X			X											X						4	2	IV	
8						X																				2	1	IV	
9							X													X						2	1	IV	
10								X			X	X	X			X	X				X					7	1	III	
11										X	X	X	X									X				2	2	III	
12								X		X	X	X	X									X				7	1	III	
13		X	X				X		X	X	X	X	X			X	X					X				7	0	II	
14										X	X	X	X				X									5	0	II	
15			X				X		X																	4	0	II	
16		X															X									3	0	II	
17			X															X				X				2	0	II	
18													X					X								2	0	II	
19																						X				1	0	II	
20				X																						1	0	II	
21																										0	0	I	
22																										0	0	I	
23																										0	0	I	
24																										0	0	I	
25																										0	0	I	
26																										0	0	I	